

<プレスリリース>

2015年5月13日
一般社団法人日本分析機器工業会

一般社団法人日本分析機器工業会 新会長に栗原権右衛門氏(日本電子株)就任

一般社団法人日本分析機器工業会(JAIMA)は平成27年度定時総会において、服部重彦氏((株)島津製作所 代表取締役会長)の後任として 栗原権右衛門氏(日本電子株式会社代表取締役社長)を会長に選任いたしました。

栗原権右衛門新会長は、当工業会の技術力の向上を目指し、さらなるグローバル化を図るとともにJASIS をアジアのハブ展として、確固たる地位を築き上げる予定です。また、産学官連携を中心として、様々な分析技術を活用することにより優れたソリューションを提供していく予定です。

栗原権右衛門 略歴

<職歴>

1971年3月 日本電子株式会社 入社
2002年6月 取締役メディカル営業本部長 就任
2004年6月 常務取締役営業担当 就任
2007年6月 代表取締役兼副社長執行役員、営業部門長 就任
2008年6月 代表取締役社長 就任
現在に至る



<主な公職歴(現職)>

2014年11月 日本学術振興会協力会評議委員
2015年3月 文部科学省 科学技術・学術審議会臨時委員

一般社団法人日本分析機器工業会とは

昭和35年(1960年)8月に創立(55年の歴史)された我が国最大の分析機器メーカーの全国組織です。「分析機器に関する技術の向上と分析機器工業の高度化を通じ、科学技術の発達を図り、日本経済の発展と国民の文化的生活の向上に寄与する」ことを目的としています。

【本件に関するお問い合わせ先】

一般社団法人日本分析機器工業会 事務局 片岡/林

Tel:(03)3292-0642 Fax:(03)3292-7157 E-mail:kataoka@jaima.or.jp

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町 1-12-3 第一アマイビル 3F

資料1

I. 一般社団法人日本分析機器工業会の現況

- ・ 2015年3月31日現在の会員総数192社(分析機器メーカー及び分析機器の販売店、代理店)
- ・ 2013年度年間生産高 約4600億円

II. 分析機器とは

- ・ 物質の組成、性質、構造及び状態などを測定するための機械器具または装置。
- ・ 具体的な例として、ウイルス等、超微細物質を観測する電子顕微鏡、残留農薬、食品添加物等、化学物質を計測するガスクロマトグラフィー質量分析装置、土壌汚染などに関わる微量元素類を計測する原子吸光分析装置などなど、原理、構造とも多岐にわたった製品が数多くある。
- ・ またそれらは企業等に於ける研究開発、品質管理や、国民生活に密接に関係する公害物質等を測る環境計測、食品添加物等の安全性チェック、犯罪捜査における科学鑑識、考古学における年代測定、病院における血液検査のような各種検査などの各分野で広く使われている。
- ・ このように、我々の日常活動の多くの場面において使われている分析機器は、我が国の科学技術を支えるマザーツールであり、科学技術基本計画(第IV期)によって打ち出されているグリーンイノベーション・ライフイノベーションを推進する上で重要な機械・装置である。

III. 日本電子株式会社について

東京都昭島市に本社を置き、高級精密理科学機器(電子光学機器・分析機器)、計測検査機器、半導体関連機器、産業機器、医用機器の製造・販売・開発研究、およびそれに附帯する製品・部品の加工委託、保守・サービス、周辺機器の仕入・販売をおこなう会社。昭和24年(1949年)5月、設立。経営理念は「日本電子は「創造と開発」を基本とし常に世界最高の技術に挑戦し製品を通じて科学の進歩と社会の発展に貢献します」であり、生み出した装置は世界の至る所で使用され、科学技術の発展や品質改善に多大な貢献をしている。

日本分析機器工業会 歴代会長

1. 吉田 正直 (株)島津製作所) 昭和35年8月～47年1月
2. 上西 亮二 (株)島津製作所) 昭和47年1月～57年5月
3. 加勢 忠雄 (日本電子(株)) 昭和57年5月～62年5月
4. 西八條 實 (株)島津製作所) 昭和62年5月～平成7年5月
5. 藤原 菊男 (株)島津製作所) 平成7年5月～11年5月
6. 竹内 隆 (日本電子(株)) 平成11年5月～15年5月
7. 矢嶋 英敏 (株)島津製作所) 平成15年5月～19年5月
8. 堀場 厚 (株)堀場製作所) 平成19年5月～23年5月
9. 服部 重彦 (株)島津製作所) 平成23年5月～27年5月
10. 栗原 権右衛門(日本電子(株)) 平成27年5月～

<ご挨拶>

一般社団法人日本分析機器工業会
会長 栗原権右衛門

長い間デフレ下にあった日本経済もアベノミクス発動以降、円安株高基調が定着し、元気を取り戻しつつあるようです。分析機器産業もリーマンショック後の一時期、後退を余儀なくされましたが、ここにきてまた成長が見込まれるようになってきました。もともと分析機器は科学技術や製造業の発展には欠かせないツールであるため、景気の変動に大きく左右されにくく、特に近年著しい新興国の経済発展もあり、右肩上がりの成長を遂げてきました。日本の一般消費財産業が新興国との競争で苦境に立たされ、BtoB産業へのシフトの重要性が叫ばれているなか、分析機器産業は極めて恵まれたポジションにあると言えますでしょう。

日本分析機器工業会(JAIMA)は1960年に任意団体として発足し、2013年には一般社団法人に改組され今年で設立55周年を迎えました。各委員会の活動も極めて活発であり、順調に組織としても運営されております。このような中、後任として当工業会の会長を拝命することになりましたが、服部前会長が築かれた路線を継承しながら、更なるJAIMAの発展に貢献したいと存じています。

まずJAIMA最大のイベントであります幕張での展示会ですが、従来日本科学機器協会との合同展として開催されてきましたが、2012年より名称も新たにJASISとして再スタートしました。新しい試みとして分析機器技術の先端診断分野への展開を目論んだ「先端診断イノベーションゾーン」にはJAIMA会員各社のみならず多くの企業に参加いただき、注目を集めています。またグローバル化が推進され、アジアのハブ展として確固たる地位を築きあげつつあり、昨今の国内外の展示会が規模の縮小や入場者が減少傾向にある中、来場者も増え去年は約24000人に達しました。今後、セミナーの開催等様々な施策を通じて、アジアからの来場者を更に増やしていきたいと考えています。

昨今の分析機器市場全体の傾向として機器だけでなく関連の応用技術、つまり優れたソリューションが求められるようになって来ました。JAIMAはこれに応えるべく早くからJASISやピッツコンなどで各種の技術説明会やコンファレンスを開催してまいりました。去年は関西地区でも新技術説明会を開催致しましたが、一層のソフト化を推進してまいりたいと考えています。

展示会以外にもアジアや欧米の団体との交流を促進し、日本の分析機器産業の強みを世界に発信していきたいと考えております。最近も経済産業省様の御指導のもと、WTO/EGO交渉においてスイスのジュネーブでプレゼンを実施しましたが、これもこの流れに沿ったものであります。また、会員のサービス向上を更に高めるため、今年度より新たに「JAIMA市場管理システム」を導入し、分析機器のより正確な統計数字の提供を図る他、従来からのホームページの充実、メルマガの配信など様々なサービスの強化に努めてまいります。

イノベーションの重要性がいろいろなところで指摘されている昨今、会員各社の連携や産学官連携を更に進め、JAIMAの発展と日本の分析機器産業の発展に微力ながら貢献致したく、皆様のご支援とご協力を切にお願い申し上げます。